

【これからの認知症ケアの指針】

全2巻

シリーズ

これからの認知症ケアにとって大切なことはなんでしょう。
このビデオには、そのヒントがあります。このビデオの実践から学び取って下さい。

地域で支えるこれからの認知症ケア

第1巻 優しい笑顔で心がなごむ

DVD/VHS 31分

～デイサービスにおける実践～

第2巻 ケアプランから始まる認知症ケア

DVD/VHS 30分

企画意図

定価(各巻) ¥20,000 (税別・送料別)

ある日突然、家族が認知症になったら…。周りは、その事態をどのように受け止め、どう臨んだらいいのでしょうか？
認知症の方が、住みなれた地域で安心してその人らしく生活ができるよう、地域では、身近にさまざまなサービスや団体が、連携してサポートする体制を整えることがさらに必要になってきます。また認知症のケアにとって重要なのは、なんといっても支援者です。支援者は、心に不安を抱えるお年寄りの拠りどころであり、良き理解者です。利用者の不安がどこにあるのかを観察し、その時その時の利用者の視線や表情から何を訴えているのかを感じ取ることが大切です。

このビデオは地域での実践的な取り組みをある地域密着型のデイサービスと地域で活動するケアマネージャーを取材して、現在から近い将来に向けて、認知症ケアの有効な教材となるよう、製作致しました。

指導/協力

デイサービスなごみの家
所長 西ケイ子
認知症看護認定看護師



ケア現場からのメッセージ

認知症ケアは、一人一人を尊重し日々の実践を積み重ねていくことが大切です。介護現場で認知症の方にどのように接したらよいか悩んでいる方、医療系・福祉系学生さん、認知症の方のアセスメント～計画立案にお役立て下さい。

元みやのぎ
訪問看護ステーション
所長 佐野袈装美
元千葉県訪問看護ステーション連合協議会 会長



ケア現場からのメッセージ

「その人を大切に思う」気持ちから「その人の過去に触れる」そして「今をいっしょに生きる」営みが看護、介護に携わる者にとって大切な心構えだと思います。認知症の方に立てるケアプラン立案、その活用にお役立て下さい。



第1巻 優しい笑顔で心がなごむ



第2巻 ケアプランから始まる認知症ケア

対象

ケアマネージャー、介護福祉士、社会福祉士、ホームヘルパー、訪問看護師、
医療・福祉関係者、福祉系高校・短大・大学・専門学校、看護師養成校、社会福祉協議会、
介護保険事業所、介護実習・普及センター、介護研修センター、自治体

企画・製作・発売

東京シネ・ビデオ株式会社

〒164-0001 東京都中野区中野2-13-21

電話 03-5342-5381 FAX 03-5342-5384

<http://www.tokyocine-video.co.jp>

Mail: info@tokyocine-video.co.jp

地域で支えるこれからの認知症ケア

第1巻 優しい笑顔で心がなごむ～デイサービスにおける実践～

○江原さん（84歳）は、夫とともに農業をしながら4人の子どもを育て、10年前に夫を亡くし、その後長女の一家と同居。今から3年ほど前に認知症を発症しました。江原さんは、なごみの家が開所した半年後から通所。週1日から始め、現在は、週3日利用しています。最近、坐骨を折り、やっと歩行できるまで回復しました。

○林さん（86歳）は、週5日なごみの家に通っています。通所当初から入浴拒否があり、入浴できるようになるまで2カ月ちかくかかりました。入浴拒否には、例えば失業など本人が知られたくない理由があることがあり、個人個人違った拒否の理由を良く見極めることが大切です。

認知症を発症した江原さん、林さんが、デイサービスに通所するようになって、「デイサービスなごみの家」での介護、看護職員における認知症ケアでどのように安定していくかを、実際に通う利用者を通して撮影していきます。

デイサービス内での利用者に対する認知症ケアの映像の中で随時、認知症ケアのポイントをなごみの家所長 西ケイ子さんにインタビュー形式でお話を聞き、重点をテロップで補足をします。

さらに利用者のご家族にもお話を聞き、在宅時からデイサービスを御願いするようになったきっかけ、その後の本人の変化についても話していただきます。

また、地域に根付いたデイサービスのポイントとして地域ボランティアとの連携をなごみの家の花見の会を通して映像で撮っていきます。

■ポイント■

- なごみの家立ち上げのきっかけ 所長 西ケイ子さんインタビュー
- デイサービス利用者の生活（江原さん）
- 江原さんの娘さんインタビュー（発症時の様子、デイサービスに通所してからの変化）
- なごみの家職員インタビュー（江原さん初回通所時の様子）
- 認知症ケアのポイント～デイサービス一日の生活から～
- デイサービス利用者の生活（林さん）
- 林さんの入浴拒否とそのケア
- 帰宅願望の強い利用者とそのケア
- 地域ボランティアの役割

第2巻 ケアプランから始まる認知症ケア

○平木さん（86歳）は4年前に脳出血を患い、その後同居していた妻の房江さんが亡くなりました。その頃から認知症が進み、現在は月曜、水曜、金曜日はデイサービスに通所し、火曜、木曜日は在宅勤務を許された長男の賢治さんのケアを受けています。

○朝野さん（73歳）は一年半ほど前、妻の入院をきっかけに認知症になり、当初はデイサービスに通所、しかし娘さんが両親の面倒をみる事と、育児の両立が困難となり、現在は、グループホームに入所。職員のケアを受け、比較的落ち着いた日々を過ごしています。

認知症を発症した方がその人らしく生活する為に、またそのご家族の介護負担をへらし、安心して生活できるようにするためにどうしたらいいでしょうか。

この巻では認知症の患者さんに対して、実際に平木さん、朝野さんのケアプランを作成したケアマネージャーにインタビュー形式でケアプラン作成の流れ（最初の訪問時、情報収集、アセスメント、情報収集の検証等）を聞いていき、ケアプラン作成のポイントを明確に解説していきます。

また、実際にケアマネージャーが作成したケアプランに基づいて安定して生活している認知症のご本人、ご家族の在宅、施設での生活を実際の映像で撮っていき、ご家族、民生児童委員等からインタビューで地域における連携の重要性、ご本人にあったケアプランに基づいた生活をしていき、ご本人がどのように安定していったかを問いかけます。

■ポイント■

- ケアプランに基づいて安定して生活している認知症の方の姿（平木さん 朝野さん）
- ケアマネージャー佐野さんインタビュー（平木さんのケアプラン作成にあたっての流れそのポイント）
- 平木さんの息子さんインタビュー（認知症発症のきっかけ、現在の介護サービスの利用について）
- 平木さんの介護サービス利用の様子（デイサービス 訪問介護サービス 訪問看護サービス）
- グループホームでの朝野さんの生活
- 朝野さんの娘さんインタビュー（認知症発症にいつ気づいたか その後、どういう流れで介護サービス利用にいきついたか）
- 民生児童委員インタビュー（デイサービス前の在宅時における朝野さんのケア）
- ケアマネージャー和田さんインタビュー（朝野さんのケアプラン作成にあたっての流れとポイント）
- 地域支援の組織モデル図表
- 朝野さんの娘さん、平木さんの息子さんインタビュー（現在の御本人の様子）

協力

デイサービスなごみの家	みやのぎ訪問看護ステーション
美浜いきいきプラザ デイサービスセンター	ハッピー稲毛・ヘルパーステーション
医療法人社団 威風会 居宅介護支援事業所 栗の郷	四街道ケアセンター そよ風